

# さいたま市議団ニュース

日本共産党

No.847  
2019.9.15

発行

日本共産党さいたま市議会議員団  
TEL 048-829-1811 FAX 048-833-8165  
http://www.jcp-saitama.jp/

神田よしゆき	とば めぐみ
とりうみ敏行	金子 あきよ
松村 としお	たけこし 連
久保 みき	



## 議案に対する質疑

# 会計年度任用職員 非正規拡大を懸念

後の見通しについて質しましたが「現段階での見込みはない」と明確な答弁はありませんでした。

9月5日、9月議会本会議で、松村としお市議が議案に対する質疑に立ちました。

来年度から、市の非正規職員のなかで会計年度任用職員という新制度への移行が始まります。会計年度任用職員になると、期末手当が支給されるなど一定の処遇改善になるものの、非正規雇用の固定化や拡大が懸念されます。

松村市議の質疑でフルタイムの非正規職員のうち350人(29%)、パートタイム非正規のうち3700人(39%)が新制度に移行することが明らかになりました。またフルタイム会計年度任用職員であっても、正規職員が使える休暇制度が一部使えないことや、住居手当や扶養手当が支給されないなどの差があることも明らかになりました。

松村市議は非正規雇用の増大を懸念する立場から、会計年度任用職員の人数や割合の今

## 投票率向上のとりくみを

10月におこなわれる参院補欠選挙の補正予算が専決処分されました。松村市議は「今年の一連の選挙の投票率は低水準だった。参院補選での投票率向上のとりくみはどうか」と質しました。市は「投票環境の向上や投票参加のよびかけをさらにすすめるべきではない」としつつも「急なことで、専決処分ということもあり、これまでの範囲内」のため「啓発ポスターの掲出場所や街頭啓発の実施場所を工夫したい」と答弁しました。

ほかに印鑑条例の改正について質疑。改正で旧姓での印鑑登録ができるようになります。市は「契約や銀行口座開設での利用や、就職・職場等での身分証明に資する」と市民の利便性が向上すると強調しました。

# 民間主導で ふくらむ構想

## 大宮 GCS 化構想特別委員会

多くの市民の関心をよんでいる「大宮駅グランドセントラルステーション化構想(大宮 GCS 化構想)」について、6月議会で大宮 GCS 化構想の特別委員会が設置され、9月2日、第2回目の委員会が開かれました。党市議団からは、とりうみ敏行市議が委員として参加しています。

この日の委員会では、市当局からこれまでの経緯や今後の進め方などについて報告されまし

た。項目としては、①構想の目的、②構想の対象範囲、③大宮 GCS 推進会議など、民間主導で構想が進んでいることをはじめ、④今後のスケジュールなどです。今後、「(仮称) GCS プラン(案)」をとりまとめ、2020年度にパブリックコメントを実施。その後プランを策定し、都市計画手続きへとすすむ予定です。

市当局の説明後、若干の質疑があり終了しました。なお、本特別委員会は、大宮 GCS 化構想の是非を問うものではなく、本構想について議会側として調査・研究を深めて市当局に提言しようとするものです。

党市議団は、財源規模を示さないまま、民間主導で構想だけをふくらませるやり方は、将来に過大な市民負担を押し付けかねず、現在の進め方には反対しています。

久保みきが  
行く!

# 殺処分ゼロへ そしてその先へ

## 神奈川動物愛護センターを視察

7月25日、久保みき市議が神奈川動物愛護センターを視察しました。久保市議のレポートです。

\* \* \*

「殺処分ゼロ」を達成した神奈川の先進的なたりくみを視察し、政策にいかす目的で、神奈川動物愛護センターを視察しました。

以前のセンターが老朽化し、建て替えを機に、動物の命を救うだけでなく動物たちが責任ある飼い主と互いによきパートナーとして生涯を幸せにくらせるための、人と動物の橋渡しができるセンターとなりました。

1階はボランティアの部屋と、手術室など動物の健康ケアのためのフロア、2階は動物たちと新しい飼い主さんの出会いのフロアとなり、ふれあい譲渡ルームや散歩のためのスロープがあり、ベランダからも動物たちの様子が見られます(写真)。もちろん、殺処分のための部屋はなく、飼い主が決まった犬や猫たちの写真が飾ってあることが印象的でした。殺処分ゼロへ、そしてその先へ進む神奈川のとりくみを視察し、今後の議会質問にいかしていきます。





# 格差と貧困をなくそう

## さいたま市母親大会開かれる

母親大会に参加した（左から）とば、松村、金子の各市議

市議団から松村としお、金子あきよ、とばめぐみの各市議が参加しました。

午前中は5つの分科会に分かれて学習。第一分科会「スマホ・ゲーム・LINEの悩み～メディアと向き合う力を育てる～」では講

9月7日、さいたま市産業文化センターにて第16回さいたま市母親大会が開かれ、党

師の成田弘子氏が、スマホなどに1日1時間以上ふれると、斜視など目への疾患、筋力や心肺機能、学力の低下など悪影響が出ることを示し、蕨市教育委員会が妊婦に対してアウトメディアを知らせるとりくみや、仙台市教育委員会と東北大学が協力して小・中学生7万人の「スマホの使用時間と学力との関係」を調査したとりくみなどを学びました。

午後は藤田孝典氏（NPO 法人ほっとプラス代表理事）が「子どもたちの未来のために私たちができること」と題して講演を行いま

した。藤田氏は、具体的な指標を使って格差と貧困が広がっている実態を示し、「日本は、OECD 諸国の中でも教育にける予算が非常に少ない。母子家庭への支援なども最低レベル。子どもたちの未来のために、貧困と格差をなくすととりくみを各地で広げよう」と呼びかけました。

参加した金子市議は「さいたま市は子どもの貧困率の調査さえしていない。市内の貧困の実態を把握し、可視化を求めるところからはじめたい」と話しました。

# 自分らしいセカンドライフのために

## 支援センターが開設

人生100年時代を迎え、セカンドライフを自分らしく生きるとはみんなの願いであり、居心地のいい、自分が必要とされるコミュニティはとても重要です。

9月2日、さいたま市セカンドライフ支援センター「リ・とらいふ」の開設式典がおこなわれ、党議員団からとばめぐみ市議が出席しました。

愛称「リ・とらいふ」は、「リ(re)：繰り返す／とらい(try)：挑戦／らいふ(life)：人生・生活」の言葉をつなげたものです。定年退職後や子育てを終えたあとの人生におい

て、生涯現役でいきいきと社会参加できるように、ボランティア・就労・生涯学習・地域活動に関する相談・情報の提供をするワンストップの窓口で「50歳からのあなたの生きがいが一緒に探します」と、相談や案内をおこなっています。事務所は浦和駅東口コムナレ9階（現在のシルバーバンク事務所）で受付は平日9：00～17：00です。

とば市議は「市民が健康で、地域とつながりを持ち、自分らしく生きるセカンドライフを心から願い、『リ・とらいふ』の活動に期待したい」と述べました。



- ▲支援センターのホームページ
- ▲支援センターの受付の様子（さいたま市ホームページから）



## 金子あきよが現場を歩く

# 「点字で投票したい」の声を受けて

参議院選挙（7月21日投票）のあと、視覚障害者の方から、「投票所でサポートを依頼したところ、すぐに代理投票（職員による代筆）を案内されたが、点字で投票をしたかった」という声が私に寄せられました。

市選挙管理委員会に問い合わせたところ、どの投票所にも点字器が備えられており、視覚障害者の方に対しては、「ルーペを使用して自書するか」「点字投票するか」を確認し、いずれにも該当しない場合に代理投票を案内

することにしているということでした。そこで、取り決め通りおこなわれていない実態について改善を求めました。

市選管から、この内容を選挙事務従事者に徹底するよう各区選管に周知文書を送るとともに、10月の参議院補選時の「投票事務要領」を改定し、点字投票の案内方法や点字器の持ち込みが可能であることがはっきりわかる表現に改める、と回答がありました。視覚障害者の権利保障の点で、一歩前進となりました。

## あなたの身近な議員です



市議(北区) 神田よしゆき 市議(浦和区) とりうみ敏行 市議(緑区) 松村としお 市議(桜区) 久保 みき 市議(見沼区) とばめぐみ 市議(南区) 金子あきよ 市議(中央区) たけこし連